

『源氏物語』の心を読む

～初音・胡蝶の巻～

開講計画 (全10回／各90分)

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	4/10	水	源氏と紫の上、新春のありさま
2	4/17	水	六条院の源氏、女君達(花散里・玉鬘・明石の君)を訪問
3	5/ 8	水	源氏、二条院の女君達(末摘花・空蝉)を訪問
4	5/15	水	六条院新春の風景—男踏歌—
5	5/29	水	紫の上の春の町の御殿の船楽
6	6/ 5	水	紫の上と中宮の春秋論争
7	6/12	水	玉鬘を慕う求婚者達
8	6/19	水	源氏、求婚者達を批評する
9	7/ 3	水	源氏、玉鬘に思慕を告白するも、自制して帰る
10	7/17	水	玉鬘、困惑し、苦悩する

受講料 16,000円(教材費別)

定員 35名

作品に感動するひとときを、心の糧にしましょう

はじめに、活字のテキストをわかりやすい現代語にして解説します。その後で、くずし字の原文を皆さんと一緒に大きな声で斉読します。

この巻からは、三十六歳の源氏の新築した六条院での栄華が繰り広げられます。「生きた仏の御国」とまで思われた御殿の様子です。「初音」とは、紫の上によって大切に育てられた明石の姫君が、生母明石の君に初めて差し上げる便りのことです。明石の姫君はまだ幼少ですが、養女の玉鬘は、六条院の花として求婚者達が関心を寄せはじめます。そうした中で玉鬘は密かに、源氏の弟である螢兵部卿の宮にひかれました。ところが玉鬘の求婚者達を批評していた源氏は恋を告白してしまい、玉鬘は動揺し返事もできず苦悩します。成人した玉鬘の源氏への賢明な対応と、夫の好き心をやんわり嫉妬する紫の上によって、玉鬘は人生最大の危機を乗り越え貴公子たちの心を惹きつけていきます。

講師

本学名誉教授

うめの こ
梅野 きみ子

テキスト・教材

初回教室にてテキストを販売します。お持ちでない方は、講座申し込み時に注文してください。テキスト以外に、他の本の持込み可。

- ①宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 初音』
出版社:新典社 著者:中田剛直 金額:650円+税
- ②宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 胡蝶』
出版社:新典社 著者:仲田庸幸 金額:750円+税

- ③仮名変体集
出版社:新典社 著者:伊地知鐵男編 金額:350円+税
- ④新潮日本古典集成『源氏物語 四』
出版社:新潮社 著者:石田・清水校注 金額:3,888円+税
※①②は必須、③④は任意 ※2019年1月現在